

令和6年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価

(令和7年2月18日現在 中間報告)

東栄町第6次総合計画 後期計画（令和3年度～令和7年度）

基本目標 豊かな文化と心を育むまちづくり

○基本施策1 学校教育

- 1-1 一人ひとりに応じたきめ細かな教育の推進
- 1-2 知・徳・体が調和した教育の推進
- 1-3 連携教育の推進
- 1-4 食育活動の推進
- 1-5 小中学校の施設・設備の充実
- 1-6 高校への就学支援

○基本施策2 家庭・地域による連携教育

- 2-1 家庭教育への支援
- 2-2 子どもの居場所づくり

○基本施策3 生涯学習・生涯スポーツ

- 3-1 生涯学習の充実
- 3-2 スポーツ活動の充実
- 3-3 総合社会教育文化施設の充実と利用促進

○基本施策4 文化の保存と継承

- 4-1 伝統文化の継承
- 4-2 文化財の保存・継承環境づくり

○基本施策5 多様な学びの場

- 5-1 人権尊重の推進
- 5-2 国際交流を通じた多様性への理解

個別施策	令和6年度の実施(達成)状況	得られた効果と今後の課題
1-1 一人ひとりに応じたきめ細かな教育の推進	・小中学校の校内現職研修を中心に、教員の指導力の向上を図った。また、教職員が日常的に児童生徒の情報を共有する場を設定し、実態把握に努めた。 ・年2回、いじめ問題対策協議会を開催した。 ・令和6年度より、学校勤務経験のある会計年度任用職員を配置し、教員業務支援、不登校対応を行った。 ・児童生徒の状況に応じて教員やスクールカウンセラーによる相談や家庭訪問を行い、不登校やいじめ等の早期対応や防止を図った。 ・特別に支援が必要な児童生徒に対しては特に細かく配慮して、教職員・保護者の共通理解を基盤にした丁寧な指導を行った。 ・小学校に通級学級を設置し、中学校でも引き続き通級指導を行うことで個に応じた学習を支援した。 ・小中学校に支援員を配置し、個の特性に応じて学校生活と学習を支援した。	・授業研究を中心とする校内研修を行い、実態把握の力や指導力を高めた。いじめや不登校などの問題の早期発見と解消、個に応じた対応に成果があった。 ・教育委員会だけでなく対策協議会組織の参加者同士で小中学校におけるいじめの状況把握に努めた。 ・夏休み期間などを含め、不登校児童の対応ができた。また、教員の業務負担軽減につながった。 ・児童生徒と個別に接することで状況を把握し、職員全員で指導の方向性を明確に共有して対応できた。不登校の解決、いじめの早期発見と正確な把握が課題である。 ・学校生活に適応でき、力を伸ばすことができた。義務教育終了後を見通して方針を立てて指導することが今後必要である。 ・個の実態に応じた指導を行うことで、学習への興味を維持し、理解を深めることができた。 ・特別に支援が必要な児童生徒に個々に対応することで、生徒の活動への集中を持続したり学習の理解を深めたりすることができた。
1-2 知・徳・体が調和した教育の推進	・学校教育目標に示し、小中学校の教育活動全体を通して計画的に取り組んだ。 ・感染症の影響により実施できていなかった海外派遣事業を5年ぶりに実施でき、中学校3年生13名と職員3名がカナダで研修を行った。 ・総合的な学習の時間を工夫し、中学校では「共生タイム」で町に関わる追究学習に、小学校ではふるさと学習で地域についての学習に取り組んだ。 ・ALTを配置し小中学校の英語教育の質の向上を図った。	・計画を具体化し適切に指導した。全人的に子どもをとらえる視点を今後も重視したい。 ・国際理解教育の一環として、言語や文化の違いを体験し、現地の人々や交流校との交歓を通して相互理解を図りコミュニケーション能力を高めることができた。 ・異なった文化や風習に接することで、日本（東栄）の文化や風習、歴史について再確認することができた。 ・地域の多くの団体や個人の協力が得られ、町について知ったり体験したりする活動が多様化し、内容もいっそう充実できた。中学生は明神祭で学習の成果を発表した。 ・話す力・聞く力が意識され、ネイティブの発音に触れてコミュニケーションへの意識が高まっている。

	・感染症や熱中症に配慮しながら体育活動に取り組んだ。部活動は働き方改革により休業日を設けて実施した。 ・小中ともに一人1台のタブレットを授業等で活用した。中学校では持ち帰りも行っており、家庭学習や不登校の生徒等の活用にも役立っている。	・感染症対策や熱中症対策による体力への影響は小学校中学校とも認められなかった。中学生は県平均より高かった。体力の個人差が大きい。 ・家庭での扱い（故障等）については引き続き配慮が必要。不登校の生徒については、タブレットを用いて学校との連絡を行っており、本人とのつながりにおいて大切なツールとなっている。
1－3 連携教育の推進	・令和6年度よりコミュニティ・スクールを設置し、「未来を担う子どもたちをみんなで育てる」～将来につながる人づくりを！を理念とした。 ・保育園の年長児が、段階的に小学校を訪問・体験する場を設定した。 ・北設楽中高一貫教育に取り組み、サマーセミナーへの参加、数学・英語の交流授業、お仕事フェア、文化祭作品展等の交流を行った。	・学校運営協議会を年6回、地域学校協働本部会議を2回開催した。とうえいCSだよりや東栄チャンネルの掲載等で町民にも周知しているが、より一層の連携の強化と情報共有が必要である。 ・小学校での生活の具体的なイメージを描くことができ、園児の意欲の向上につながった。 ・高校生の学校生活や各種の取り組みを知り、進路選択の参考にできた。
1－4 食育活動の推進	・年3回の「愛知を食べる学校給食の日」をはじめ、給食の歴史をたどるメニューを給食週間に出す、季節を感じる献立を出す、地域の食材を活用するなど特色ある給食を工夫して提供した。	・栄養職員と生徒のコミュニケーションも多く、食に対する関心が高まり、残食もない。個に応じた量を考えたい。
1－5 小中学校の施設・設備の充実	・小中ともに一人1台のタブレットを授業等で活用した。中学校では持ち帰りも行っており、家庭学習や不登校の生徒等の活用にも役立っている。【再掲】 ・東栄中学校50周年記念事業の一環で、学校施設環境改善交付金を活用し、東栄中学校体育館床改修工事、Wi-Fi設置工事を実施した。 ・東栄中学校50周年を記念して、中学校の制服をリニューアルし、記念式典にて披露した。 ・中学校の自動火災報知設備受信機の関連部品が経年劣化により故障し、取替工事を行った。 ・一般財源により、中学校入学者への夏用ポロシャツを配付した。	・学校の授業だけでなく、東三河全体での共有事項等幅広くタブレットの活用機会が増えている。今後もタブレット活用の機会は増えることが見込まれるため、GIGAスクール構想の実現に向けて取り組んでいく必要がある。 ・体育館床は安全で明るい床となり、安心して利用できる施設となった。Wi-Fi設置工事は、普通教室及び特別教室でのネットワーク環境が不十分であるため、アクセスポイントを取り付けた。 ・多様性の時代に合わせて、ブレザーの制服とし、令和7年度の生徒分から町で補助することとした。 ・自動火災報知設備受信機関連部品の取替により、火災に対する備えができた。関連部品の定期的点検を引き続き行う。 ・高温化が進み熱中症が危惧される中、安全かつ快適に学校生活を送る一助となった。

1－6 高校への 就学支援	・高校への就学を支援するために、通学費用や授業料の一部補助を継続して行った。 ・高校生の通学の利便性を高めるよう配慮して、町営バスを運営した。	・通学の交通費や下宿代、授業料等就学に必要な費用の一部を補助することによって、家庭の負担を軽減するとともに、進路選択の幅を広げることができた。 - 通学に不便を来さないバス運営ができた。
------------------------------	--	--

個別施策	令和6年度の実施(達成)状況	得られた効果と今後の課題
2-1 家庭教育への支援	・小中学校とも家庭との連絡を日常的に行い、必要な情報を交換した。 ・保護者会、学校保健委員会等の場で、発達段階や実情に応じた家庭教育の方向性を示した。また、必要に応じて個別に懇談し、考えを共有した。 ・スクールカウンセラーを継続配置し、保護者の相談に対応できるようにした。 ・不登校や配慮が必要な家庭に対して、学校だけでなく行政（教育委員会・福祉課・児童相談所等）でも情報共有し、対応検討を行った。	・メール、学校ブログ、とうえいチャンネルの活用など、方法を工夫して情報提供ができた。 ・現状の課題について情報発信ができた。また、個々の課題に対して共に考え、解決の方法を支援できた。どの保護者とも信頼関係をいっそう深めたい。 ・専門家を配置し必要に応じて相談を受けることができた。より活用しやすくしたい。 ・課題や案件に応じて相談相手が変わるため、個人情報や役割分担に留意しながら進めていく必要がある。
2-2 子どもの居場所づくり	・令和6年度よりコミュニティ・スクールを設置し、「未来を担う子どもたちをみんなで育てる」～将来につながる人づくりを～を理念とした。 ・地域見守り隊活動を依頼し、登下校の安全を図った。 ・診療所の開設に対応し、新橋前三差路の交通安全の促進を図った。 ・小中学校ともに総合的な学習の時間を中心に、地域を理解し地域を愛する心を育む学習を計画的に実施した。 ・生涯学習講座にワークショップの場を設けた。	・学校運営協議会を年5回、地域学校協働本部会議を2回開催した。とうえいCSだよりや東栄チャンネルの掲載等で町民にも周知しているが、より一層の連携の強化と情報共有が必要である。 ・安全を保障するとともに、地域の方と触れ合う機会となった。 ・通学路交通安全対策連絡会を中心に安全に登下校できるように各機関に働きかけ、警察の巡視、注意喚起の看板設置などによって、小学生が安全に登下校できた。 ・町に関する学習活動の機会が増え、より多くの人と交流できた。地域の一員としての自覚をいっそう高めたい。 ・関心のある活動を経験することができ、多様な活動に触れる場が増えた。

個別施策	令和6年度の実施(達成)状況	得られた効果と今後の課題
3-1 生涯学習の充実	・社会教育文化施設などを活用し11の講座を開設して、延べ60回を運営した。1回のみの講座は2講座実施した。 ・令和6年12月現在、生涯学習講座の講師として延べ37名のボランティア指導者が活躍している。 ・作品展示会や芸能まつりを開催し、文化活動の発表の場を設けた。	・参加者の関心に講師が積極的に対応していただき、充実した生涯学習講座が実施できた。1回終了の講座にも関心がある受講生が多かったため、数回できる対応が必要である。 ・指導者の高齢化への対応と新規生涯学習開設として、新たな人材発掘が引き続き必要である。 ・作品展示会に36団体の出展、芸能まつりに12団体の出演があり、今後も楽しみであるという声が多かった。
3-2 スポーツ活動の充実	・B&G事業として、水辺の安全教室、カヌー教室、ごみ清掃、リーダー研修、キッズ・マリンフェスティバル(生涯学習)を行った。 ・希望に応じて、できるだけ多様な生涯スポーツ講座を開設するとともに、団体の活動を支援した。 ・名古屋グランパスサッカー教室、ドラゴンズ選手による野球教室、三遠ネオフェニックス選手によるバスケット教室を開催した。	・B&G事業として活動を継続的に推進し、水辺に親しみ安全に対する意識向上や地域指導者会と連携協力し組織の充実を図ることができた。 ・各種スポーツ愛好者に活動の場を提供できた。高齢化や参加者減への対応が課題である。 ・子どもたちの技能や意欲を高めることができた。今後も多様な種目を経験できるような工夫をしたい。
3-3 総合社会教育文化施設の充実と利用促進	・B&G体育館、弓道場が例年並みに利用できた。 ・総合文化施設の管理運営については、シルバー人材センターを指定管理者として適正に管理を行った。	・利用者は固定利用客のため、今後野球場やテニスコートの利用方法等の対応が課題である。 ・計画的な運営と施設整備を行った。施設の老朽化もあり、引き続き施設の充実を図っていきたい。

個別施策	令和6年度の実施(達成)状況	得られた効果と今後の課題
4-1 伝統文化の継承	・将来への継承の方策等を共有するため、花祭保存会長情報交換会を開催した。 ・県の補助金を有効活用し2つの無形民俗文化財に対する補助事業を実施した。月花祭保存会は「衣装更新、太鼓の修繕、笛の新調」中在家花祭保存会は「太鼓の修繕、草鞋と扇の新調」を行った。	・花祭の実施内容、子供たちの舞習い方法等について各保存会長よりそれぞれの意見を出してもらうことで情報共有ができた。 ・2花祭保存会で道具の修繕や新調などをしたことで、花祭の保存や継承を図ることができた。
4-2 文化財の保存・継承環境づくり	・国県指定の無形民俗文化財と、県町指定無形民俗文化財の保存団体に補助金を交付した。 ・町指定文化財所有者更新事業として、所有者が変更されていない文化財について所在の確認調査を実施した。	・花祭開催と保存のために必要な経費や道具等の整備に使われている。10地区が様々な工夫をし、次代の子どもたちへの継承が途切れないように開催することができた。 ・代替わりで関係者と連絡先が取れないことや、所在の確認も進んでいない状況で今後も文化財審議会委員の協力のもと行っていく。

個別施策	令和6年度の実施(達成)状況	得られた効果と今後の課題
5-1 人権尊重の推進	・小中学校とも人権学習を実施した。日常的に児童生徒観察と教職員間の情報共有を行い、いじめを見つけて対応するとともに、人権週間の重点的指導など各種の学習を年間指導計画に位置付けて、人権意識の高揚に努めた。	・いじめにつながる児童生徒の行動の早期発見と指導ができており、他者への思いやり、差別を許さない意識、命を大切にする心を育てることができた。それぞれの子どもたちの状況を把握し、組織的に個に応じた対応ができた。
5-2 国際交流を通じた多様性への理解	・中学生海外派遣事業を計画し、令和6年5月23日から28日までの6日間、5年ぶりに実施することができた。 ・東栄中学校3年生13名、教師3名がカナダへ行き、RCA校との交流を深めた。	・国際理解教育の一環として、言語や文化の違いを体験し、現地の人々や交流校との交歓を通して相互理解を図りコミュニケーション能力を高めることができた。 ・異なった文化や風習に接することで、日本（東栄）の文化や風習、歴史について再確認をし、将来の地域を担う人材の育成を行うことができた。 ・英語力の向上につながった。